

西根

園児が琴の音を奏で父母など拍手喝さい



園児は琴で「さくら」を演奏し、父母らを楽しませました

ひなぎく幼稚園はひな祭りの3月3日、学習発表会を開きました。発表会には、子どもたちの成長した姿を楽しみにした父母らが出席。園児たちは、この日のために練習した合唱や合奏を、元氣いっぱい披露しました。年長組の女の子は琴の演奏に挑戦。ひな人形のような女の子10人は、しとやかな指の動きで「さくら」を奏で、父母から盛んに拍手が送られました。

ひ孫らに囲まれ滝川ヨネさん笑顔で百歳

むらさき苑に入所する滝川ヨネさんは、3月8日に百歳を迎え、10日には百歳を祝う会が行われました。祝う会には、ヨネさんの家族と入所者などが参加。バースデーケーキのろうそくの火をひ孫と吹き消し、長寿を祝いました。ヨネさんは、明治40年に岩手町で誕生。16歳で故・仁太郎さんと結婚し、4男3女をもうけました。現在は、たくさんの孫、ひ孫に囲まれ、いつも笑顔で過ごしています。



ひ孫に囲まれ100歳の誕生日を喜ぶ滝川ヨネさん(中央)

西根中が統合40周年と体育館の完成祝う

西根中学校統合40周年と体育館新築落成を祝う記念式典は3月24日、同校体育館で開かれました。

式典には、全校生徒、PTA、市関係者など600人が出席。堀籠富男校長は「40周年と新体育館完成に立ち会えた機会を喜びとし、新しい体育館で一層勉強とスポーツに励み、21世紀を担う人材に育ってほしい」と在校生に話しました。

在校生を代表して生徒会長の小林蓮君が「旧体育館のたくさんの思い出を忘れずに、新体育館を活用して西根中のさらなる発展につなげたい」と誓いました。

体育館の延べ床面積は1416平方メートル、事業費は3億8500万円。3月14日には、新体育館で卒業証書授与式が行われました。これまで8685人が同校を巣立っています。



↑生徒たちは全校合唱で統合40周年と新体育館の完成を祝いました

式典には全校生徒やPTA、歴代校長、関係者など600人が出席



八幡平市

わしの尾の新酒を片手に郷土料理で舌鼓

地元食材を使った郷土料理と地酒を楽しむ「郷土の新酒と食のようばく地産地消2007」は3月17日、岩手山焼走り国際交流村で開かれました。

この催しは、市の第三セクター・コスモプラザ西根(社長・田村正彦市長)が開催し、今回で6回目。スローフード運動を通じて、郷土の食文化



地元食材を使った郷土料理を囲みながら、楽しいひと時を過ごす参加者



吟醸酒や無ろ過生原酒などの説明を聞きながら一杯

を再認識し、地域企業と消費者の相互交流を深めることが目的です。

テーブルには、ニジマスやヤマブドウ、シイタケ、杜仲茶豚などの市が誇る食材を使った料理がズラリ。参加した約200人は、わしの尾の新酒を味わいながら、地元食材をふんだんに使った料理に舌鼓を打ちました。

会場には、地産地消屋台料理コーナーが軒を並べ、地元企業などが、自慢の加工品を出品。アトラクションでは、わしの尾の従業員が「酒造りの唄」を披露し、新酒と歌声に酔いしれました。

平高生9人がオーストラリアで国際交流

海外派遣研修に参加する平館高校の生徒9人は3月6日、田村正彦市長を訪問し、オーストラリアでのホームステイや国際交流での意気込みを伝えました。同校の海外派遣は、今回で16回目。3月11日から24日までの日程で、1年生5人、2年生4人が参加します。参加者を代表して松村辰巳君が「英会話など今までの学習成果を発揮して、国際的な視野を広げたい」と話しました。



海外派遣研修に参加する平館高の引率教諭と生徒たち



災害時の活動に備え、炊き出し訓練をする団員たち

市赤十字奉仕団が結成し活動をスタート

明るく住みよい社会を築き上げようと、市赤十字奉仕団は3月11日、市総合福祉センターで結成総会を開きました。総会では、会長に戸張昇さん(安比高原)を選出。災害救護や保健衛生などの活動方針について確認しました。

続いて、災害時の炊き出し訓練を実施。一人分の米を小分けした袋に詰め、大鍋で炊き、心も体も温まるとん汁も出来上がりました。この後、AED講習も行われています。

安代

安比高原舞台に小学生スキー日本一決定



開会式で選手宣誓をする矢巾・東小の沢田優士郎君

小学生のスキー日本一を決める第1回全国小学生アルペン大会は3月26日から4日間、安比高原スキー場を舞台に開かれました。

この大会は全国規模で初めて行われる小学生のスキー大会。10県から4年生以上の選手約300人が出場しました。開会式では、矢巾・東小の沢田優士郎君が「全力で最後まで滑りきります」と選手宣誓。選手たちは初代王者を狙い、ゴールを目指しました。

6年間の思い出ずし卒業生全員で味わう

安代小学校は3月9日、出前ずし講座を開き、卒業生控えた6年生が、ずし職人の仕事を通して、職業について理解を深めました。

講師は、五日市出身で盛岡市でずし懐石・重兵衛を営む伊藤重治さん。児童たちは伊藤さんにコツを教えてもらいながら、かつば巻きや納豆巻き、にぎりずしに挑戦しました。児童は小学校6年間の思い出を込め、出来上がったずしを全員で味わいました。



ずし職人の伊藤さんにずしのにぎり方を学ぶ児童たち

澄みきった空気の中で歩くスキーを満喫

2007ラングラウフチャレンジinAPPPIは3月18日、安比高原まきば特設コースで行われました。

ラングラウフは、ドイツ語で歩くスキーのこと。スキーの初心者から上級者まで、景色を楽しみながら自分のペースで歩く、冬季の生涯スポーツとして親しまれています。

当日は、県内外から350人が参加しました。開会式で、

安代小3年の佐藤梨花さん、佐藤奈未希さん、山本希歩さんが「野うさぎのように元気に駆け巡ります」と選手宣誓。選手たちは、号砲とともに自分の体力や体調に合わせて3、5、10、15分の林間コースへ出発しました。子どもと一緒にゆっくり歩く家族連れや、全力でタイムを狙う選手たちは、声援を受けながら、新雪が積もる野山を楽しみました。

↑自分の体力などに合わせてコースを選び、景色を楽しみながらゆっくりとスキーを楽しむ参加者

←やったーゴールだ。バンザーイ

松尾

木目が彩る松尾中学校の新体育館が完成

老朽化のため改築工事が行われていた松尾中学校の体育館は完成し、3月2日に新体育館開きの会が開かれました。

体育館開きの会には、全校生徒、PTA、市関係者など250人が出席しました。田村正彦市長が「新しい体育館を活用し、勉強にスポーツに励み、市を支える人材に育つて



新体育館はバレーボールコート2面分の広さ。こけら落としは同校の男女対抗戦

ほしい」と激励。生徒会長の志羅山祐太郎君が「立派な体育館を大切に、未永く活用したい」とお礼を述べました。同校のバレーボール部員が男女対抗戦を披露。伝統の合唱で体育館の完成を祝いました。

新体育館は、鉄骨平屋1296平方メートルで、事業費は3億6900万円。体育館内部は、校舎と同様に木材を使った温かみのある木目が特徴です。昭和27年に建てられた旧体育館は、文部省建築モデルスクールに指定された同校のシンボル。全国から視察が大勢訪れた体育館は、昨年7月に解体されました。



新体育館で合唱を披露しハーモニーを響かせました

特産のホロホロ鳥と八幡平ワインで乾杯

市の第三セクター・松尾ふるさと振興公社が主催する「ホロホロ鳥と八幡平ワインの夕べ」は3月23日、なかやま荘で行われました。

この催しは今回で6回目。松尾地区の特産品・ホロホロ鳥とニジマスを生かした料理とワインを楽しむグルメ企画です。参加者は、ホロホロ鳥のしゃぶしゃぶや、ニジマスを使った押し寿司「清流寿し」など14種類の料理を味わいながら、ワインに酔いしれました。



松尾地区の特産品・ホロホロ鳥とニジマスの料理がズラリ

地元食材の活用幅を広げる加工品を開発



地元食材を活用した加工品42品が並べられました

地元食材を使い、市の特産加工品の開発を進める八幡平市ふるさと研究会は3月10日、市総合福祉センターで加工品研究会を開きました。

今回のテーマ食材は、ヤマブドウと雑穀。生産量日本一のヤマブドウの食材としての可能性を広げようと42品を展示しました。参加者約30人は、加工品の色や形を確かめながら一つ一つ試食。評価シートに、意見や感想を書き込み、今後の商品開発につなげます。